

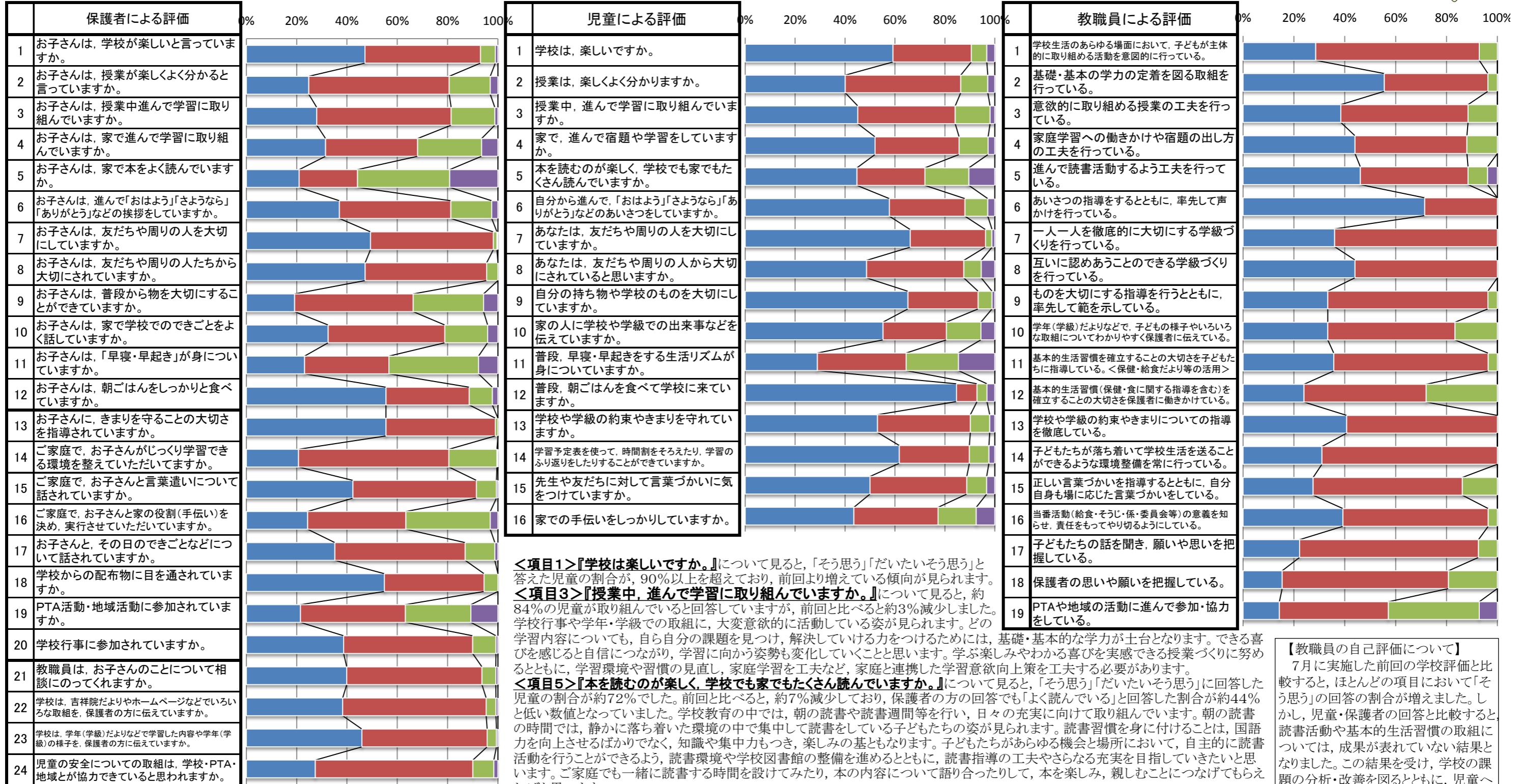
学校評価を 児童の豊かな学びと育ちへ

平成29年2月実施 学校評価（保護者 児童 教職員）のまとめ

平素は、本校教育推進にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。2月中旬に実施しました学校評価の集計ができました。今回多くの保護者の方々から回答をいただきました。回答数は490を超える、保護者の方々の教育に対する関心の高さ、お子さんを家庭・地域・学校が一体となって育てていきたいという思いを強く感じました。大変ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。この学校評価を教育活動に生かし、児童一人ひとりの健やかな成長に向け取り組んでまいります。今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。

グラフの見方(左から)

そう思う
だいたいそう思う
あまりそう思わない
そう思わない



＜項目9＞「普段からものを大切にしているか。」に対して、約93%の児童ができるといふ回答しています。保護者の方の回答を見ると、約66%できていると回答され、約34%の方ができていないと感じておられます。この結果から、児童の思いと保護者の方の思いに若干の違いがあるように思われます。子どもたちが、友達や周りの人を大切にしている、友達や周りの人から大切にされていると回答した割合が、前回よりも上回っており、人権感覚も少しずつ磨かれています。お家の方の買つもらつ感謝の思い、自分の持ち物を大切にしようとする気持ちも磨いていってほしいと思います。

＜項目1＞「学校は楽しいですか。」について見ると、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた児童の割合が、90%以上を超えており、前回より増えている傾向が見られます。＜項目3＞「授業中、進んで学習に取り組んでいますか。」について見ると、約84%の児童が取り組んでいると回答していますが、前回と比べると約3%減少しました。学校行事や学年・学級での取組に、大変意欲的に活動している姿が見られます。どの学習内容についても、自ら自分の課題を見つけ、解決していく力を持つためには、基礎・基本的な学力が土台となります。できる喜びを感じると自信につながり、学習に向かう姿勢も変化していくことだと思います。学ぶ楽しみやわかる喜びを実感できる授業づくりに努めるとともに、学習環境や習慣の見直し、家庭学習を工夫など、家庭と連携した学習意欲向上策を工夫する必要があります。

＜項目5＞「本を読むのが楽しく、学校でも家でもたくさん読んでいますか。」について見ると、「そう思う」「だいたいそう思う」に回答した児童の割合が約72%でした。前回と比べると、約7%減少しており、保護者の方の回答でも「よく読んでいる」と回答した割合が約44%と低い数値となっていました。学校教育の中では、朝の読書や読書週間等を行い、日々の充実に向けて取り組んでいます。朝の読書の時間では、静かに落ちていた環境の中で集中して読書をしている子どもたちの姿が見られます。読書習慣を身に付けることは、国語力を向上させるばかりでなく、知識や集中力もつき、楽しみの基ともなります。子どもたちがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、読書環境や学校図書館の整備を進めるとともに、読書指導の工夫やさらなる充実を目指していきたいと思います。ご家庭でも一緒に読書する時間を設けてみたり、本の内容について語り合ったりして、本を楽しみ、親しむことにつなげてもらえばと思います。

＜項目11＞「普段、早寝・早起きをする生活リズムが身についていますか。」について見ると、「そう思う」と答えた児童の割合が前回と比べて約10%減っていました。＜項目12＞「普段、朝ごはんを食べて学校に来ていますか。」においても約3%減少しており、保護者の方の「そう思う」「だいたいそう思う」の割合も約3~5%減っていました。学校では、年に4回の生活がんばり週間を設定し、がんばりカードを通して点検をし、子どもたちが自ら進んで規則正しい生活を送れるように取り組んでいます。基本的生活習慣の乱れが、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。成長期の子どもたちに大きく影響する生活習慣を整えられるように、今後も積極的に取り組んでいきたいと思います。

【教職員の自己評価について】
7月に実施した前回の学校評価と比較すると、ほとんどの項目において「そう思う」の回答の割合が増えました。しかし、児童・保護者の回答と比較すると、読書活動や基本的生活習慣の取組については、成果が表れていない結果となりました。この結果を受け、学校の課題の分析・改善を図るとともに、児童への適切な対応等、学校全体での組織的な取組をさらに充実していく必要があると考えます。今後の学校教育活動においてさらなる充実を目指し、教職員一同、努力してまいります。